

本当の平和って何だろう

那覇市立上間小学校六年 宮良 流亜

青くきれいな沖縄の海を見ると、本当にこの場所で戦争があったのか分らない。多くの笑い声と、観光客でいっぱいこの場所は、八十一年前、はげしい争いが起きていた。

私は、沖縄戦について考えたとき、

「本当の平和」について学んだ。沖縄戦では、多くの兵士だけでなく、日常の生活を送っていた住民までも、はげしい争いにまきこまれた。

家族を失って、食べ物も食べずに、命を落とした住民もいた。中には、「兵士につかまるくらいなら」と、家族で家族を殺しあう住民もいた。

そして、自分が今、その時代にいたら、どうだろう。家族とはなればなれになり、明日生きられるか分からない生活を送る事ができただろうか。そして、平和がどれだけ大切で幸せかを知らなかった自分を、後悔するだろう。

今の日本には戦争がない。楽しい学校へも行ける事。友達と笑える事。家族と楽しい会話ができ、「おはよう」「お休みなさい」と言える事。

それは全てあたり前ではなく戦争を経験した人たちが、

「もう二度と戦争をしてはいけない」そう次の世代から今へつないでくれたからだ。しかし世界には今も戦争がある。くずれた町や、泣きさけぶ住民のすがたがニュースで流れてくる。そこで私は、沖縄戦を経験した人たちの思いが想像できる。

平和は、ただ願うだけじゃ守れない。たがいを思い合う事、たがいを認める事。その小さな積み重ねが、平和へつながると思う私は、沖縄戦を昔の出来事にしたくない。

八十一年前、あの日海に流れたなみだを忘れず命の大切さを伝えられる人になりたい。

そして、未来の日本へ、沖縄戦の出来事をつなげて、平和の大切さをつなげたい。